



我妻学名誉館長

我妻榮記念館の名誉館長を務めていた私の父、我妻堯は、2020年5月15日に老衰のため亡くなりました。月日が経つのは早く、既に四十九日が過ぎ、もう半年になろうとしています。

生前に父に賜りました皆様のご厚情に感謝申し上げます。祖父の我妻榮は76歳、長男の我妻洋が58歳で亡くなったのに対し、父の享年は90歳と長寿でした。太平洋戦争の過酷な時代を生き抜き、国立病院医療センター（現・国立国際医療研究センター）の産婦人科医長として多忙な毎日を送りました。その後、同センター内に国際協力部創設にもなって、国際医療協力部長（後に、国立国際医療センター国際医療協力局長）として、保健医療の国際協力事業に関与し、多数の発展途上国を訪れました。不規則な生活や劣悪

な衛生状態でも体調を崩したことはほとんどありませんでした。かえって、私が風邪をひいて体調を崩すと、父は、多数の患者さんを毎日のように往診しているのに、自分自身は体調を崩したことはないというのには、困りました。父は、産婦人科医という専門家の立場から産科をめぐる医療裁判における鑑定および私的意見書を取りまとめ、『鑑定からみた産科医療訴訟』（日本評論、2002）を公刊しています。現在ではかなり状況は改善されてはいるものの、医療従事者に裁判が提起されている場合に、鑑定人として実際に裁判に関与することに躊躇する医師が少なくなかった当時、父は、多忙な中でも、依頼されれば、中立・公平な立場で多数の鑑定書や私的意見書を作成しました。その後、産科医療の立場から

父も数多くの産婦人科医を育

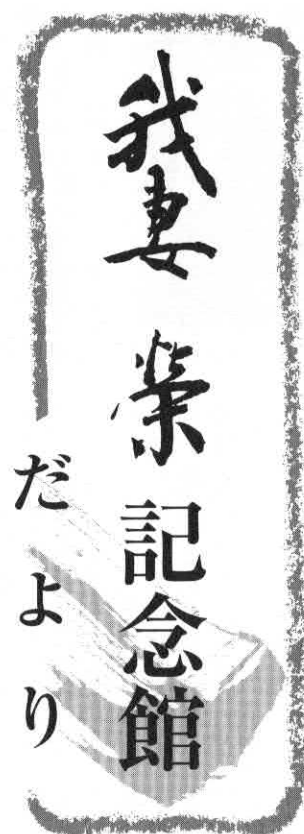
成するだけではなく、保健医療分野における国際協力の人材育成にも尽力し、『保健医療分野のODA』（一粒社、2006）を公刊しています。我が国における途上国に対する保健医療の国際協力において、多面的な視野と人材育成の重要性を説いています。新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡がっている中、父が長年勤務していた国立国際医療センターが中核病院の一つとして感染対策に重要な役割を果たしていることを誇らしく思っているのではないのでしょうか。1992年に記念館が開設してから、父は、名誉館長を務めながら、種々の行事で米沢を訪れ、いろいろな方と交流するのを楽しみにしておりました。現在、コロナウイルスの関係で、記念館の活動も種々の制約を受けているのではないかと思います。私自身も東京から記念館を訪れることには躊躇を覚えます。しかし、明けない夜はないと言われているように、むしろ、今のような困難な時代にこそ、記念館の事業を次世代につなげていくために、矢尾板操館長とともにともに歩んでゆきたいと思っています。今後引き続きよろしくお願

父・我妻堯の足跡

— 名誉館長就任のご挨拶に寄せて —

東京都立大学法科大学院

教授 我妻 学



第 25 号

発行日 / 2020年11月25日

発行 / 公益社団法人 米沢有為会

我妻榮記念館

〒992-0045

米沢市中央 3-4-38

TEL・FAX 0238-24-2211

箕浦茂樹先生が、法律の立場から私が執筆に加わり、『「新訂」鑑定からみた産科医療訴訟（日本評論、2013）』を公刊しています。

祖父から私まで、唄孝一都立大学名誉教授（記念館だより2号・16号参照）とは、長きにわたる深い交流がありました。唄先生が1969年に設立した日本医事法学会において、早くから医療系の立場から理事を長年務めるなど法学との架橋の礎となったといっても過言ではないでしょう（記念館だより17号参照）。父は、原稿の締め切りや学会の報告時間を厳守するのが当たり前と思っていたため、私を含めて法学者の多くが、あくまでも目安に過ぎないと思っ

てなかなか筆が進まないのに、苦言を呈していたことも思い出します。ただ、祖父が原稿の締め切りを遵守していたのは、残念ながら私にもわかりません。祖父は、多数の優れた民法学者を育て上げたことはよく知られておりますが、特筆すべきは、女性の法律家の育成にも熱心に取り組んでいたことです。自分以外の兄弟が皆女性だったからかもしれないませんが、多面的な視野を持ち合わせていたと思

我妻 堯先生を追悼する

株式会社勁草書房
編集部部長

竹田 康夫



竹田康夫氏

去る5月15日に我妻堯先生はご逝去された。奇しくも我妻榮先生の最後の愛弟子、川井健先生（一橋大学名誉教授、2013年ご逝去）と同じ命日である。

堯先生と私との主たる接点は、榮先生が遺され、現在私が勤務する勁草書房から刊行されている数々の名著（いわゆるダットサン民法全3巻、民法案内全11巻）の著作権継承者の窓口となっておられたことに関連する。その想い出を綴ることをもって先生への追悼とさせていただきます。

堯先生にはじめてお目にかかったのは、今から17年前の2003年3月14日、当時理事をされておられた新宿の戸山にある財団法人協賛医学研究振興財団事務局であった。2002年5月に廃業し、それに先立つ同年2月に私を解雇した一粒社は、榮先生の著作を出版させていただいたのであるが、その際に先生より勁草書房に継続出版させていた

だくことを正式にご諒承いただき、現在に至るのである。

2002年のある時、失業中の一介の素浪人である私の自宅に、榮先生の門弟の遠藤浩先生（学習院大学名誉教授、2005年5月5日ご逝去）から突然お電話をいただき、話があるから椎名町の自宅まで来いという。用件を尋ねたが、会ってから話すとのことであった。初めて先生のご自宅に何うと、思いもかけずダットサンと引き換えにお前の就職を考えている、と仰せになられた。大変有難いお言葉に心より感激した。遠藤先生も前述の川井先生も一粒社版のダットサンの改訂者であった。その後、2、3度遠藤先生のご自宅に呼び出され、ご高話を拝聴した。そんな折、縁があつて同年12月に勁草書房の採用が決まり翌年2003年1月から出社する運びとなった。採用が決まった直後にご挨拶に先生のご自宅に伺い、入社のご報告をするのもにダットサンを小社で刊行させていたきたいと厚かましいお願いをすると、入社を喜ばれ申し出もご快諾いただいた。

小社入社後、早速堯先生に榮先生のご著書、ダットサン、



故 我妻堯先生

民法案内の続出版のお願の寸簡を差し上げた。種々の経緯があつたが、上記のとおり2003年3月14日に呼び出された。その際、遠藤先生から堯先生宛てのご芳書を見せられた。竹田は信の置ける人間だから、任せた方がいいという内容であつた。遠藤先生らしい温かいお心遣いに感極まった。他の著作権者の承諾も得て、また堯先生の格別のご理解、ご協力のもと手続的に急なく継続出版と相成った次第である。

当時、ダットサン、民法案内は絶版になつていたが、多くの読者が公刊されることを待ち望んでいる不朽の名著であり、また、未だ多くの読者に愛読されている古典であり輝きを放っていた。伝統のある両書は、いわば社会公共の共有財産であつて、私はそれを一時委託されて管理しているようなもので、これを後世に引き継ぐことが私の責務と任じ、その重責をひしひしと

感じていた。

爾来、お蔭様で、ダットサンは第3版まで遠藤先生、川井先生に改訂のご労を執つていただき、初版からの刷部数は各巻数万部となり、いまだ多くの読者から好評を博している。また、残念ながら両先生ご逝去され我妻先生の門弟の先生方はすべてお亡くなりになったわけであるが、その後、第4版は債権法、相続法改正に対応し、民法学界の重鎮を改訂者に迎え、第3巻は既に今年3月に刊行、第1巻は近日中に、第2巻は来年刊行予定である。

半世紀以上の長きにわたつて命脈を保っている法律書籍は皆無である。我妻榮先生の基本的な骨格「通説の到達した最高水準を簡明に解説する」という方針のもと、歴代の改訂者の手により複雑化した現代社会を反映した法令の改廃や判例を付加し常に最新化を図ってきたからであるものと拝察する。

また、民法案内も川井先生の補訂により、未だ多くの読者に愛読されている。債権法改正により現在第2巻、第7巻から第11巻まで絶版状態であるが、許されるなら読者の要望に応え改正法に対応した改訂版の刊行も検討したいと考えている。

2006年10月に上梓された御著『医療保健分野のOD A1陰から光りへ』では、編集担当の榮に浴した。先生



故 遠藤浩先生

は東京大学医学部助教授から1976年に国立病院医療センター（現・国立国際医療研究センター）産婦人科医長と華麗な転身をされた。そして1986年に厚生省（現・厚生労働省）が日本における保健医療の国際協力の拠点として同センターに発足させた国際医療協力部の初代部長に就任、1993年に同センター設立に伴い、初代国際医療協力局長に昇任された。御著は、同センター設立までの過去のプロジェクトの問題点、今後のあるべき姿を、常にその機軸におられ保健医療面のプロジェクトを数多くの体験されたことに基づき総括的批判をはじめての打ち合わせの際、毎日日記をつけていたのだから程度覚えていたのだから、原稿では微に入り細を穿つ克明な叙述に感服したのを覚えている。

2009年12月には、ダットサン第1巻が大原学園の司法書士試験受験生向けの講座テキストに無断で使われていたことが講師の内部告発によりわかり、同予備校に対し損

害賠償などを求めて堯先生をはじめとする著作権者が東京地裁に提訴した。ほぼ丸写しの部分もあり、先生は「けしからん。」と怒り心頭のご様子であられた。

日頃ご厚誼に与っている我妻榮記念館館長の矢尾板操様から突然「我妻堯名誉館長追悼号」への執筆ご依頼をいただいた。身に余る光栄であるが、自分にとっては荷が重く、

また他の適任者が多数おられると、一度はお断りした。再度のご依頼をいただき、大恩のある堯先生へのささやかな報いになればと思ひ、承引した次第である。堯先生の存在なくして、現在の自分はいない。生前の先生のご高配に心より感謝するとともに、ご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

今年度も多くの「寄付等を賜りました」

■尻高邦夫様（米沢市駅前一丁目在住）より100万円をご寄付いただきました。

我妻榮記念館は、令和4年度に開館30周年、令和5年度が我妻榮先生没50年にあたり、何らかの事業、催し物などを行いたいと思っております。尻高氏

からは、これらの周年事業に使用してもらいたいという趣旨で100万円を頂戴いたしました。どのような事業等を行うかはこれからですが、有意義な事業を考え、このご寄付を有効に活用させていただきたいと考えているところです。本当にありがとうございました。

■高梨照一様（川西町上小松在住）より松野良寅初代我妻榮記念館館長の著書41冊をご寄付いただきました。

松野良寅氏は、山大教育学部や東北芸術工科大学の教授であられた方で、当我妻榮記念館の初代館長になります。米沢の歴史に造詣が深く、「素顔の先人たち」、「海軍こぼれ話」など数多くの著書を残されました。我妻榮先生に関するものでも「我妻榮先生」、「自電子物語」があり

ますし、その他の著書にも我妻先生のことが多く書かれております。当記念館で販売しているものも十数冊ありますが、この度頂戴した著書は、前記のほか「東北の長崎」「チャールズ・H・ダラス」「興譲館今昔夜話」など貴重な本も含まれております。記念館二階の「勉強部屋」の書架に展示してありますので、ご興味ございましたら、ご覧いただきたいと思います。高梨様ありがとうございます。

米沢市内の小学五年生全員に小冊子『故郷を愛した民法学者我妻榮先生』を差し上げました

この事業は、昨年から始めた事業で文化勲章受章者で米沢市名誉市民の「我妻榮先生」を市民の方々に知ってもらおう事業の一環で、小学生の時から「我妻榮先生」を知ってもらうとともに、この事業を30年、40年と続けることで、米沢市民の大半の方が「我妻榮先生」を知っているという状況を作ろうという、壮大で息の長い事業です。10月7日上杉博物館で開催された小学校校長会で、伊藤和夫米沢有為会米沢支部副支部長から山崎公彦小学校校長（興譲小学校校長）に5年生全員分（632名分）が手渡されました。



矢尾板館長から興譲小5年生へ



矢尾板館長から広幡小5年生へ



校長会で伊藤副支部長から山崎会長へ

令和2年度の主な出来事・行事など

年月日	期	出来事行事など	摘要
令和2年 4月5日(日) ～6月17日(水)		新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館	
令和2年 5月15日	月	我妻堯名誉館長ご逝去 (90歳)	
令和2年 7月18日	土	大滝米沢有為会会長・矢尾板館長東京の我妻宅へ弔問	
令和2年 9月3日	木	川西町上小松在住高梨照一様より松野先生の著書41冊頂戴する	
令和2年 9月6日	日	米沢市駅前一丁目在住の尻高邦夫氏より記念館の周年事業へと100万円寄付をいただく	
令和2年 10月5日	月	興譲小学校に於いて興譲小学校及び広幡小学校の5年生全員に「故郷を愛した民法学者我妻榮先生」を副読本として授与式を行う	
令和2年 10月7日	水	上杉博物館で開催された「小学校校長会」に於いて市内全小学五年生に対し「故郷を愛した民法学者我妻榮先生」副読本として授与式を行う	
令和2年 10月18日	日	自願奨学生による清掃奉仕及び「我妻榮先生に学ぶ会」	興譲館高校より生徒10名参加
令和2年 10月27日	火	仙台高等検察庁大場亮太郎検事長・山形地方検察庁松下裕子検事正御一行様ご来館	

事に携われ光榮です。

☆大変勉強になりました。

友達に勉強を教えた。
(小学生時代)

米泔市立第四中学校一年A班

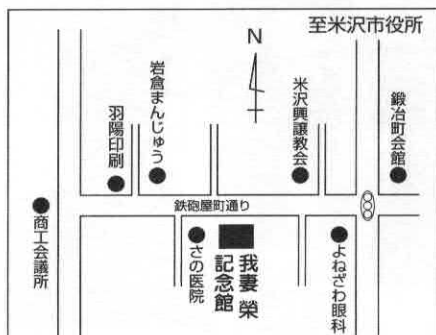
よろしくお願いいたします

名譽館長	顧問	館長	運營委員	運營委員	運營委員	運營委員	運營委員	運營委員	運營委員	管理人員
我妻學(新)	上村勘二	矢尾板操	本多和彦	安部敏彦	佐野隆一(新)	高橋節子	柿崎悦子	山崎公彦(新)	佐藤繁	手塚正

日曜日、月曜日、木曜日、金曜日を開館日とします。

開館時間帯は

入館料 無料



〒992-0045 米沢市中央3-4-38
TEL・FAX0238-24-2211

我妻榮記念館

検